

「県立大学第4期中期目標(案)」および「中期計画策定に向けた今後の方向性」(令和7年～12年度)について

項 目		第4期中期目標(案)	第4期中期計画策定に向けた今後の方向性
		【基本目標】 県内各地に設置するキャンパスおよび特色ある学部を最大限活かし、「持続可能な福井を支える大学」として地域や県民の期待に応える大学を目指す。 ○社会全体の急速な変化に対応し、 実社会で活躍する人材を育成 ○開学以来の研究成果を基に、 イノベーション創出に繋がる研究力を強化 ○県内大学や自治体、県内機関との連携の中心的な役割を担い、 地域貢献の取組みを推進	【基本的な方向性】 「福井の次の100年を支える大学へ 第2の開学」 ○北陸新幹線の福井・敦賀の開業により、福井は新たな時代の幕開けを迎え、福井がさらなる発展を目指していく中で、福井県立大学は、開学以来の教育研究成果を基盤に、 県内各地に設置する6キャンパスや特色ある6学部の特性 を最大限に活用していく ○ 実社会で活躍する人材の育成や新たな価値の創造 に努め、その 成果を地域社会と県民に還元 することを重視することで、福井の活力を支えるための取組みを強化していく
教 育	教育の内容	○福井に根差した教育をさらに高度化するため学部等の新設・再編	○「恐竜学部」、「恐竜学研究科（仮称）」、「地域政策学部（仮称）」を新設、経済経営学研究科を再編 ○4センター体制（情報、国際、地域連携、共通教育）による重点分野の取組み強化
		○6学部6キャンパスを有する総合大学としての特色を活かし、社会のニーズおよび学生の可能性を広げる多様で特色ある教育	○企業や自治体と連携し、長期の就労体験型学習（コーオペ教育）を実施 ○異なる地域の大学で一定期間学「国内留学制度」を創設 ○データサイエンスやA Iを活用した体系的な情報教育プログラムを提供
	教育実施体制の強化	○県内他大学との連携をさらに深め、学生の学びの選択肢を広げるとともに、大学の機能を強化	○「共通教育センター（仮称）」を設置し、県内他大学と連携した多様な教育を実施
	国際交流	○学生の海外派遣や外国人留学生の受入体制を強化	○「国際センター（仮称）」を設置し、国際交流を総合的に支援 ○県内定着を図るため、日本語教育体制を充実
		○実践的な英語力を身に付ける多様な機会を提供し、実社会で活躍するグローバル人材を育成	○永平寺キャンパス内に、「グローバル空間」を整備し、英語等でのコミュニケーション能力を強化 ○海外大学等と連携した留学、研修プログラムを企画
	学生の受入れ	○多様な学生を確保するための入試制度の改革等	○探究活動成果を活用した選抜、女子枠を創設、社会人受入れを促進
研 究	研究力の向上	○県内各地に設置する6学部6キャンパスの特色を活かし、地域課題を解決する研究プロジェクトを推進	○農林水産物の県産化、未利用資源の活用など多様なプロジェクトを推進 ○大学発スタートアップの創出を支援
	研究実施体制の強化	○学内全体において研究支援体制を強化し、研究力を向上させるための環境を整備	○「地域連携センター（仮称）」を設置し、産学官連携を強化 ○外部資金の獲得を強化
地域貢献	社会人の学び直しの充実	○社会のニーズに対応したリスキリング・リカレント教育を積極的に推進するため、「生涯学び続けられる場所」として社会人が利用しやすい体制・環境を整備	○「福井まちなかキャンパス」に、リスキリング・リカレント教育を総合的に推進する拠点を設置
	地域との共創	○県内各地のキャンパスや学部等を拠点に、地域社会の課題を自治体や県内企業と連携を密にして解決する学生参加型の取組みを推進	○各キャンパスにおいて、自治体、産業、高校等と連携した共創プロジェクトを展開 ○地域経済研究所が主体となり、学生参加型の地域課題プロジェクトを推進
業務運営等	財務内容の改善	○学生納付金や施設利用料等を必要に応じて見直すとともに、国等の競争的資金や共同研究費などの獲得を強化し、自己収入を増加	○外部資金の獲得を強化、学生納付金の見直し検討など自己財源を確保
	ダイバーシティ社会・環境	○ダイバーシティ社会や環境に配慮した取組みを推進	○ジェンダーギャップ解消の取組みを実施、サステイナブルキャンパスを実現

「県立大学 第3期中期計画」(令和元年～6年度)の主な実績について

新学部・新学科の創設

2学部・2学科・1研究科の創設

- 実践から農を広く学ぶ「創造農学科」を開設（R2.4）
- 水産増養殖を中心に学ぶ我が国初の「先端増養殖科学科」を開設（R4.4）
- 福井県初の看護系の博士後期課程「健康生活科学研究科」を開設（R5.4）
- 恐竜学部の開設（R7.4）に向けた準備（認可申請、学部棟建設）
- 地域政策学部（仮称）の開設（R8.4予定）に向けた準備（構想策定）

教育

地域・社会の要請に応える学びの質向上

- 地元経営者等による特任講師制度を創設し、実践的な教育を推進
- 体系的な数理・データサイエンス・AI教育を導入

人物評価を重視した入試制度の改善、社会人等の受入れ拡大

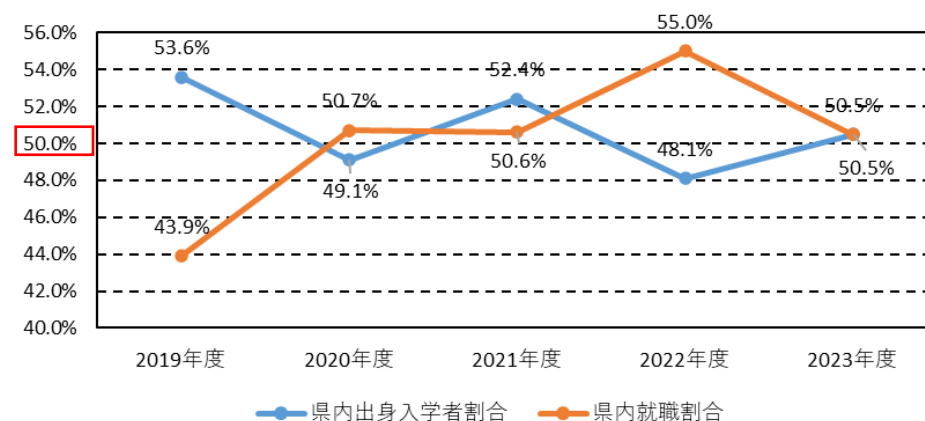
- 一般選抜等に面接試験を導入、先端増養殖科学科の総合型選抜に「地域枠」を設定
- 都市部の中核人材が大学で学びながら県内企業の経営課題の解決に取り組む「ふくい企業価値共創ラボ」を実施

高い就職率の維持、学生生活の支援

- 合同企業説明会やOB・OGとの懇談会を開催
- 学術研究活動や課外活動で活躍した学生を顕彰する「つぐみ賞」を創設

- ・県内出身者の入学割合 R1～R5平均：50.7%（目標値 50%）
- ・県内への就職割合 R1～R5平均：50.1%（目標値 50%）

県内出身者の入学割合・県内への就職割合の推移

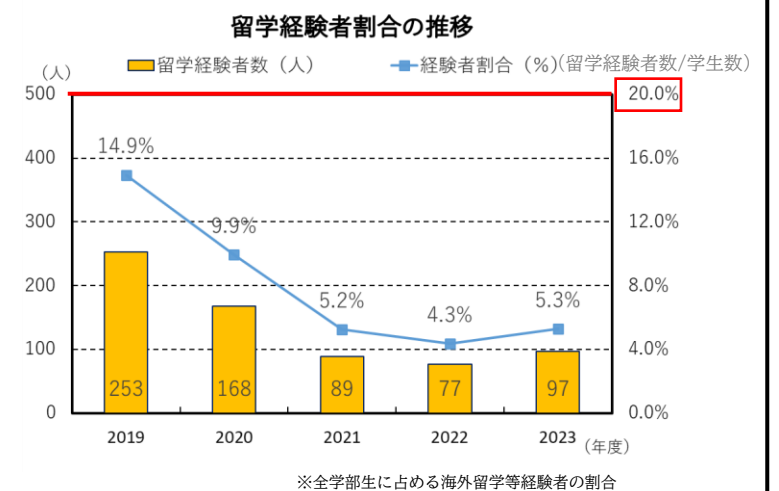
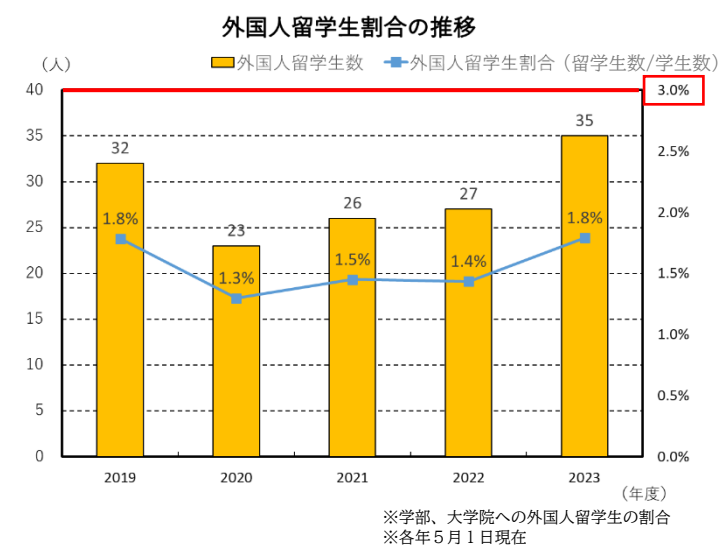


国際化

国際化や留学に関する支援体制の強化、留学機会の増進

- オンライン活用による語学研修や海外協定校との交流
- 新たに5つの海外大学と学術交流協定を締結し交換留学等を実施

- ・外国人留学生の割合 2023年度：1.8%（目標値 3%）
- ・留学経験者の割合 2023年度：5.3%（目標値 20%）



研究・地域貢献

学外との連携による研究・地域貢献の推進

- ステップアップ補助金の拡充など外部資金獲得を強化
- 農水産物の県産化など地域課題の解決につながる全学的な研究プロジェクトを推進
- 県大発ベンチャー企業設立支援制度を創設し、3社の設立を支援（(株)恐竜総研など）

- ・科研費等の外部研究資金の申請率 2023年度：97.1%（目標値 80%）
- ・県内企業等との受託研究・共同研究・受託事業の件数 2023年度：34件（目標値 30件）

